

広域連携・まちづくり・様々な産業の活性化に大きく寄与するバイパスルートの整備

【担当省庁】国土交通省

桜井市における取組

(現状・課題)

主要地方道桜井都祁線は、名阪国道針ICと国道165号を結ぶ広域幹線ネットワークであり、既にほとんどの区間は改良されているが、白河から初瀬ダムまでのトンネル区間約1kmの「白河バイパス」が事業未着手となっている。

また、本市の観光拠点の一つ「長谷寺」の参道となっている現道区間は、幅員が狭く観光客や通学する生徒が安全に歩けない状態である。

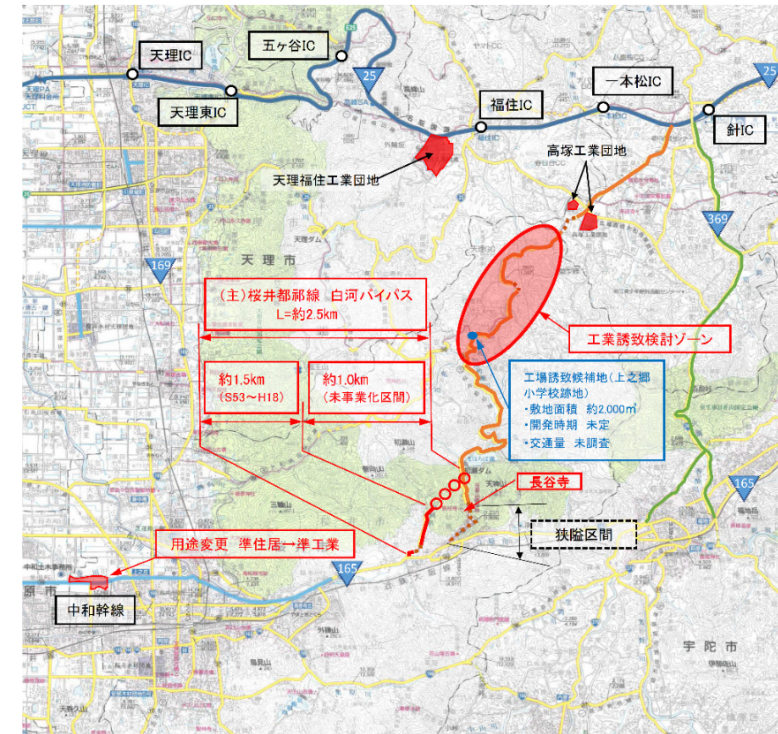
(市の取組)

本市では令和5年度より事業計画地での地籍調査を開始し、現地での一筆地調査を完了した。令和6年度は地籍図等を作成し、令和7年度の登記完了を目指し、取り組みを進めている。

長谷寺門前町周辺地区では、平成28年3月に奈良県と本市が連携・協力してまちづくりに取り組むための基本協定を結び、安心安全なまちづくり施策（参道のモール化）や新たな拠点づくり（工業誘致ゾーン）等に取り組んでいる。

白河バイパスが開通すれば、名古屋方面から名阪国道の危険な箇所を通らずに中南和地域へとつながり、新たな観光・物流のルートが確保され、中和幹線沿道への企業誘致にも大きく寄与することが期待される。

「白河バイパス」は、広域連携の促進に大きく寄与すると共に、幅員狭隘区間の解消、観光シーズンの混雑緩和や、観光、商工業をはじめ、様々な産業の活性化につながり、桜井市のみならず、県中南和地域の振興においてなくてはならない重要な路線である。



国にお願いすること

- 主要地方道桜井都祁線（白河バイパス）の整備は、広域連携の促進に不可欠なものであり、県並びに市町村の様々な施策展開に大きく寄与するものであります。
- つきましては、奈良県と桜井市が連携・協力して取り組んでいる長谷寺門前町周辺地区の安心安全なまちづくり施策（参道のモール化）や新たな拠点づくり（工業誘致ゾーン）等、地域の賑わい創出に、なお一層努力してまいりますので、何卒、令和7年度奈良県全体の「社会資本整備総合交付金」の総額確保に関しまして、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。